

# FRPベランダ改修工法

高耐候&高強度ウレタンウレアコーティング材

# オートンウレアックスHG

## FU08工法標準施工仕様書

2015年10月版



**オート化学工業株式会社**

URL <http://www.autochem.co.jp>

本 社	〒110-0005	東京都台東区上野5-8-5 CP10ビル5階
		TEL : 03-5812-7310 FAX : 03-5812-7950
大阪支店	〒564-0044	大阪府吹田市南金田2-18-23
		TEL : 06-6821-8011 FAX : 06-6821-8010

## I. 適用範囲

本施工仕様書は、一戸建ておよび集合住宅の改修用途に限り、既設防水層はFRPとする。

## II. 施工および管理

本工事の施工および管理にあたっては、本施工仕様書に記載された事項に基づいて、正確かつ丁寧な施工を行い、十分な技術管理と作業管理を行うものとする。

## III. 協議

本施工仕様書に記載がない事項、および変更、訂正などが生じた場合は、その都度、関係責任者と協議の上、承認を得て施工する。

## IV. 仕様

本標準施工仕様は、オートンウレックスHGによる軽歩行露出工法とする。

### IV-1 平場仕様

オートンウレックスノントップ防滑仕様		
順序	使用材料	標準使用量
		kg表記
1	OP-55F	0.15kg/m <sup>2</sup>
2	オートンウレックスHG	0.6kg/m <sup>2</sup>
3	オートンウレックスHG 骨材5%添加防滑仕上げ	0.2kg/m <sup>2</sup>

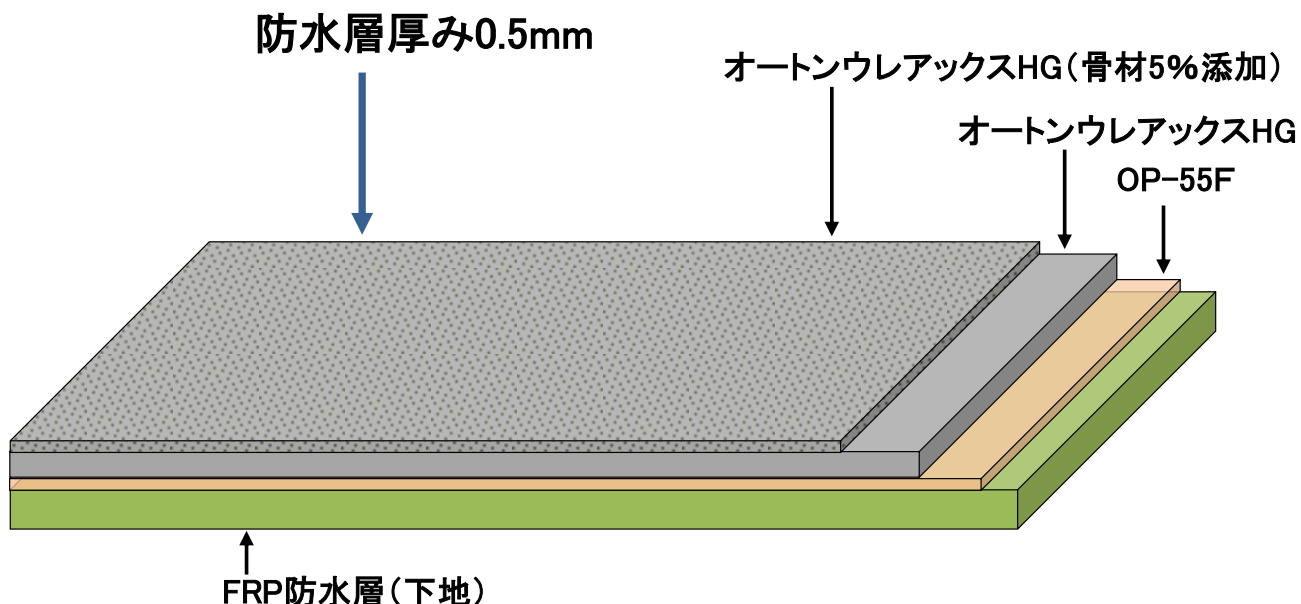
※オートンウレックスHGは硬化促進剤Sを添加することにより、硬化を調整して下さい。

#### 硬化促進剤Sの添加量目安

	冬	春秋	夏
硬化促進剤S添加量(%)	5.0	2.5	0.0
0.6kg/m <sup>2</sup> 使用時の硬化時間(hr)	2.0	2.0	2.0

#### 標準設計価格

工法名	設計価格 (円/10m <sup>2</sup> )	防水層膜厚 (mm)
FU08	75,000	0.5~0.6



## V. 使用材料

### 5-1 主要材料及び副資材一覧

商品名	寸法・規格	用途・備考
オートンウレアックスHG	10kg/缶	一成分形ウレタン・ウレアコーティング材
硬化促進剤S	800g/本・6本/箱	硬化促進剤
希釈溶剤K	3.5kg/缶	希釈溶剤
骨材	珪砂5号	防滑仕上げ
OP-55F	1.9kg(2L)/缶	一成分形ウレタンプライマー
オートンアドハー3500	320mlカートリッジ・10本/箱	欠損部調整用(非暴露用)
オートンQイックシーラント	320mlカートリッジ・10本/箱	下地処理用(非暴露用)
オートンノンブリードQイック	320mlカートリッジ・10本/箱	下地処理用(非暴露用)
オートン超耐シーラーTF2000	320mlカートリッジ・10本/箱	端末処理用(暴露用)
オートンクリアトルα	250ml/缶・2缶/箱	洗浄溶剤

### 5-2 使用材料の概略

#### ● オートンウレアックスHG

一成分形ウレタン・ウレアコーティング材

#### ● 硬化促進剤S

硬化促進剤

#### ● 希釈溶剤K

希釈溶剤

#### ● 骨材

珪砂5号

#### ● OP-55F

ウレタン樹脂系湿気硬化型プライマー。被着体とウレアックスHGを強力に接着させる。

FRPのトップコートにも強力に接着する。

※FRPのトップコートにはパラフィン(蠟)成分が含まれている為、通常はサンディング処理を施し、トップコートを除去する必要がある。

#### ● オートンアドハー3500

ウレタン系パテ材。欠損部の調整に使用する。

#### ● オートンQイックシーラント・オートンノンブリードQイック

ウレタン系速乾シーリング材。入隅部の面取り、下地および防水材の不陸調整に使用する。

オートンノンブリードQイックは塗料非汚染タイプです。

#### ● オートン超耐シーラーTF2000

高耐候性ウレタン系シーリング材。仕上げ塗料の保護を必要としない部分に使用する。

#### ● オートンクリアトルα

非石油系溶剤・天然由来成分配合。

下地表面の汚れが酷い場合は、オートンクリアトルαにより除去する。

## VI. 施工前の確認

施工前に以下の事項について関係責任者と十分協議、確認する。

### 1. 施工時期および工期の確認

天候等にも配慮し作業、養生に十分な工期を確保する。

### 2. 施工範囲、施工箇所の確認

- 関係責任者の立会いのもと、既設FRP層の劣化状況、施工範囲を確認する。
- エアコン室外機等、施工範囲内に設置されている障害物については、関係責任者と協議して一時撤去の要請、もしくは施工箇所の調整を行う。
- 既設FRP層の劣化状況を確認し、大きく欠損している部分は「オートナドハー3500」で調整し下地を作成しておく。

### 3. 作業環境および周辺状況の確認

- 作業場所の採光、換気が十分か確認し、改善すべき点があれば修正する。
- 作業場所および周辺部を材料の飛散等で汚さないように、養生シートなどで養生する。

### 4. 材料の保管

- 材料の運搬については、材料、周辺部に損傷の無いように留意し、降雨などで濡れないような場所を確保する。場合によって養生シートを敷く、覆うなどの処置をする。
- 材料は直射日光の当たる場所を避け、日陰に保管する。

## VII. 施工手順

### ① 下地の清掃

被着面が汚れていると材料の接着力に影響する為、ゴミ、塵などを取り除き正常な被着面を確保する。

汚れが酷い場合は「オートンクリアツールα」をウエス等に浸し、汚れを擦り取る。

※1 オートンクリアツールαが皮膚に付着しない様にゴム手袋を装着する。万が一付着した場合は水で丁寧に洗い流してください。

※2 使用時に発生する揮発性成分によって目・喉を痛める恐れがあるので作業を行う時は必ずマスクや防護メガネを着用して下さい。

### ② 欠損部の調整

大きく欠損している箇所にプライマー「OP-55F」を塗布し、パテ埋め処理を行う。

※3 欠損部の調整はコーティング材塗布後の意匠性に影響します。

### ③ プライマー「OP-55F」塗布

ローラー、刷毛等を使い、塗り残し、ムラの無い様に塗布する。

※4 標準使用量 0.15kg/m<sup>2</sup>

### ④ 下地処理（シーリング処理）

不陸箇所、入隅部にシーリング処理を行う。

※5 不陸調整はコーティング材塗布後の意匠性に影響し、入隅部の処理はコーティング材に対する引き裂き応力を軽減します。

⑤「オートンウレアックスHG」1層目塗布

「オートンウレアックスHG」ローラー、刷毛等を使い、均一にムラ無く塗布する。

※6 標準使用量  $0.6\text{kg}/\text{m}^2$

※7 オートンウレアックスHGは硬化促進剤Sの添加により、硬化を調整して下さい。  
(硬化促進剤Sの添加目安;冬 5%、春・秋 2.5%)

※8 オートンウレアックスHGは希釈溶剤Kにより、作業性の調整が可能です。  
(希釈溶剤Kの添加目安;冬 7.5%、春・秋4%)

⑥「オートンウレアックスHG防滑仕上げ」2層目塗布

骨材を「オートンウレアックスHG」に対して5～10%混合し、ローラー、刷毛等を使い、均一にムラ無く塗布する。

※9 立上り、側溝部は防滑仕上げにしないで下さい。

※10 標準使用量  $0.2\text{kg}/\text{m}^2$

※11 「オートンウレアックスHG」1.0kgに対し骨材は50～100gとなります。

※12 オートンウレアックスHGは硬化促進剤Sの添加により、硬化を調整して下さい。  
(硬化促進剤Sの添加目安;冬 5%、春・秋 2.5%)

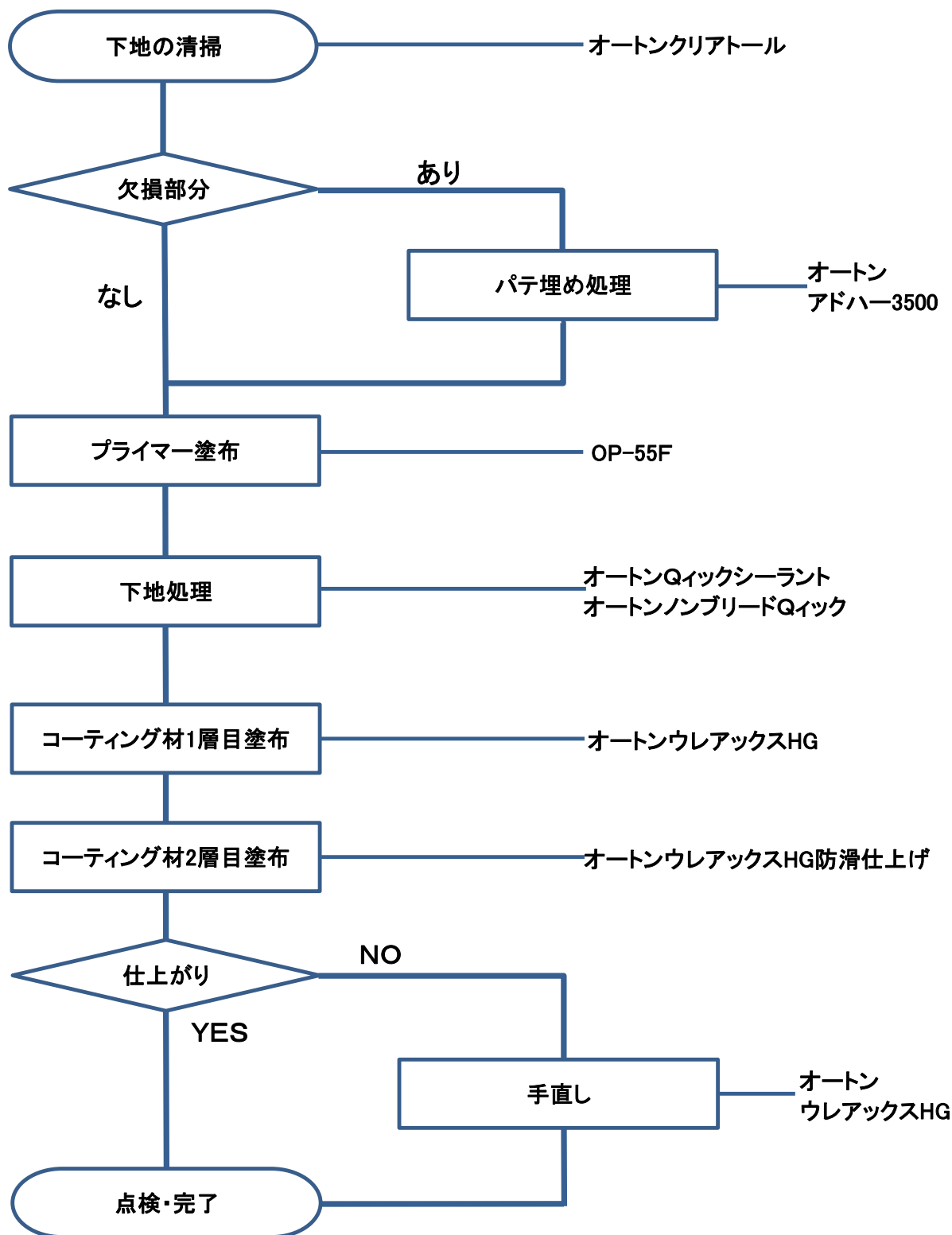
※13 オートンウレアックスHGは希釈溶剤Kにより、作業性の調整が可能です。  
(希釈溶剤Kの添加目安;冬 7.5%、春・秋4%)

⑦ 点検・完了

養生等を撤去し、施工箇所を点検確認する。

Ⅷ. フローチャート

Ⅷ-1 平場仕様



Ⅸ. 塗布間隔目安

Ⅸ-1 平場仕様

平場仕様				
順序	工程	使用材料	標準使用量	作業間隔※
			kg表記	
1	下地清掃			
2	欠損部調整	オートンアドハー3500	適量	1時間以上
3	プライマー塗布	OP-55F	0.15kg/m <sup>2</sup>	30分以上
4	下地処理	オートンQィックシーラント オートンノンブリードQィック	適量	1時間以上
5	コーティング材 1層目塗布	オートンウレアックスHG	0.6kg/m <sup>2</sup>	2時間以上
6	コーティング材 2層目塗布	オートンウレアックスHG 骨材5%添加防滑仕上げ	0.2kg/m <sup>2</sup>	2時間以上

※ オートンウレアックスHGは硬化促進剤Sにより、硬化を調整して下さい。  
(硬化促進剤Sの添加目安;冬 5%、春・秋 2.5%)

※ オートンウレアックスHGは希釈剤Kにより、作業性の調整が可能です。  
(希釈剤Kの添加目安;冬 7.5%、春・秋 4%)